

## 10ならば囲め

### ■キャトルドライブ

西部劇に出てくるように、カウボーイが牛の群を追っていくのがキャトルドライブです。(船頭山ナビ12号(041225参照) 移動の途中で一頭が群から離れたとします。そのとき、この一頭を追いまわして群に連れ戻そうとしても、なかなか上手くいかないそうです。こんなときは、離れ牛を投げ縄で捕らえ、足を結んで横倒しにしておいて、群全体を移動させて離れ牛を取り囲み、縄を解きます。そうすると離れ牛は、否応なく群に取り込まれてしまいます。

### ■犬の散歩

ある方に伺ったのですが、マナーの悪い犬を訓練するときにもキャトルドライブのような方法をとるそうです。具体的には、社会性を身につけていない問題犬とその飼い主を、よく訓練された犬とその飼い主数組で取り囲んで一緒に散歩します。犬は、社会性のある動物ですから、このような経験をさせると犬の方が自分で学習し、次第にまともになっていくそうです。噛み付いたり、唸ったりしたりしなくなるというのです。

また、このとき、ついでに町の防犯パトロールも兼ねてやるのだそうです。だったら、減量したい人が一緒に歩いたり、一人暮らし高齢者の安否確認をしたりするのもありでしょう。

### ■10ならば囲め

孫子の兵法に「十ならば囲め」とあります。こちらの戦力が相手の十倍あるなら、直接に刃を交えることはせず、包囲して相手が降伏するのを待て、ということです。

十倍の人に囲まれると、普通の人降参します。周りに合わせて自分を変えようとしてします。しかし、十倍の人が無関心である場合、その人を勢い付かせてしまうことがあります。例えば、犬のフン害などが典型的な例です。注意する人がいないのでマナーの悪い飼い主も平気です。公園でリードを解いて犬を走り回らせている人を注意すると、「誰が走らせちゃいかんと決めたのか。勝手に権利を奪うな。」と逆ギレされることがあります。

### ■囲んで声を奪うな

現在ある町で、公園づくりのワークショップをしています。約50人の住民が参加していますが、その多くは年配の方で、少数派の若いお母さんたちが、意見を言えない雰囲気があります。このような場合、別途、お母さんたちに発言の場をつくってあげる必要があります。それは、よい計画をつくるために必要な“特別扱い”であると思います。

### ■「犬の散歩同行隊」を意図的につくる

問題犬と一緒に散歩してくれる愛犬家のグループがあるなら、その人たちが活躍しやすい環境を整えることが重要です。市長や県知事が、15分でもいいので、こうした活動に参加し、テレビカメラの前で「知らないことを近所の方に教えてもらうのはいいことだ」と言ってくれば、それを機に、熊本でも本格的なコンパニオンアニマル社会に移行できると思います。身近な問題の解決は、犬の同行散歩に代表されるような方法が有効であると考えます。